

「6月の植物園(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

6月の植物園は静かである。特に見るべきものがないからであろう。私は連れと、静かな園内をゆっくり散策することができた。



小石川植物園は、武蔵野台地の東端の「舌状台地」と小石川低地の境目に位置する。その境界には段丘崖が見られ、園内には坂や階段が多い。段丘崖には湧水も見られる。段丘崖の下には池があり、日本庭園になっている。水辺に、キスゲの仲間の花が咲いていた。



初夏のキノコもいくつか見つけた。キノコシーズンの初期に発生するので「ハツタケ(初茸)」という。ハツタケ(ベニタケ科)は種類が非常に多く、見分けが難しい。これも「カワリハツ」か「クサハツ」か、最後までわからなかった。近寄って匂いを嗅ぎ、独特の不快臭があれば、クサハツ(臭初) *Russula foetens*

とわかるが、柵の中だったので、それができなかった。カワリハツ(変わり初)は名の通り、一つの種類でさまざまな色を呈するので、よく他種と見間違える。

ベニタケ科のキノコにはもともと毒キノコは少ないと考えられていたが、最近になって、無毒と思われていたキノコに毒があると判明した種類が多い。従って、古い図鑑で食毒を判定するのは危険である。



池の橋上にある藤棚は、実を結んでいた。これもまた初夏の植物園らしい風景である。池の向こうに見えるのは、東京大学の博物館分館である。この博物館の開館日には、茗荷谷寄りの出口から出場できる。



2時間近くかけて、植物園を散策したが、出会ったのは、樹木に詳しいご婦人2人と、このネコだけだった。まるで「あたいがここのヌシよ！」と言わんばかりに、カメラを向けても微動だにしない。